

2023 年 12 月 31 日（日）「黒い馬の騎士 ～信仰者として食糧問題を考える～」

ヨハネの黙示録 6:5-6

5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「行け」と言うのを聞いた。そして見ていると、黒い馬が現れた。それに乗っている者は、手に秤を持っていた。6 私は、四つの生き物の間から出る声のようなものを聞いた。「小麦一コイニクスを一デナリオン、大麦三コイニクスを一デナリオンとする。オリーブ油とぶどう酒を損なってはならない。」

【序論】

今日の箇所では、私たちの生活と最も密接に関わっている「食糧」の問題が扱われています。飢饉や戦争による食糧不足はいつの時代にもありますが、現代はそれが天災なのか人災なのかが分かりにくい時代になってきました。元参議院議員で国際政治経済学者の浜田和幸氏は、「気象兵器があるということは世界の常識だ」と 2011 年の国会で発言しています¹。また国際的にも、「環境改変技術の軍事的使用その他の敵対的使用の禁止に関する条約」が 1976 年 12 月 10 日に第 31 会期国際連合総会決議 31/72 号で採択され、1978 年 10 月 5 日に発効されていますが、条約に罰則がないため実際は世界で何が行なわれているのか分かりません。私などは、現在の異常気象の背後には何か人の手によるものがあるのではないかと疑ってしまいます。いずれにせよ、今年の夏は異常な暑さに見舞われ、私も畑でニンジンの芽が何度も枯れてしまって、大変苦勞いたしました。このような気温の上昇の原因が何によるものなのか、様々な見解がありますが、それが何であれ世界の農業事情に大きな影響を及ぼしていることは確かです。今日は終末的な食糧不足の問題について考えてまいります。

【本論】

本論 1. 黒い馬に乗る騎士

小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「行け」と言うのを聞いた。そして見ていると、黒い馬が現れた。それに乗っている者は、手に秤を持っていた。（6:5）

¹ 「地震兵器とか自然改変装置というのは、別にアメリカだけではなくて、旧ソ連、今のロシアも、中国も、多くの国々が研究開発に余念なく取り組んできた事実があります。しかも、地震あるいは津波を人工的に起こすということは実は技術的には十分可能だと言われているのは、国際政治、軍事上においては常識化されているわけであります。そういった意味で、スマトラ沖の問題にしても、そういう可能性があるということを十分踏まえた上で世界の国際政治の現実ということをとらえる必要があるというのが私の基本的な考え方であります。」

（第 177 回国会答弁より）

https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaigirokua.nsf/html/kaigirokua/024217720110711010.htm

「白い馬」「赤い馬」に続いて「黒い馬」が現れます。色からして何か悪いことを来たらす使者のようなイメージですが、その通り、飢饉や食糧不足による死を象徴しているようです。「白い馬」が「征服」を、「赤い馬」が「流血」を表しているなら、戦争の結果として国々にもたらされる国土の荒廃と食糧難でしょう。これは時代を問わず庶民の生活を脅かすものです。2022年2月に始まったロシアーウクライナ戦争は、「欧州のパンかご」と呼ばれるウクライナの農業生産量に甚大な影響を及ぼしました。農村部に住む人々が大規模な避難民となったため、「物理的なアクセスの阻害や家屋や農地といったインフラの被害等によって農産物生産が妨げられると同時に、港湾の閉鎖や油糧種子の加工作業の停止、一部作物と食品の輸出制限や禁止といった影響²」（農林水産省）が出ました。このことは、ウクライナから穀物を輸入している国々にも打撃を与え、総合的な食品価格の高騰につながっています。

黒い馬の騎手が手に持っている「秤」は、当時穀物の売買を行なう際に用いられていた、バランス竿の両端に器が吊るされたタイプの天秤を指すでしょう。片方に穀物を置き、もう片方におもり 錘を置くことで料金が決まりました。

あなたがたは、正しい天秤、正しいエファ升、正しいバト升を用いなさい。（エゼ 45:10）
ところが、そこで呈示される金額に消費者は驚愕することになります。

本論 2. 食糧不足とインフレ

私は、四つの生き物の間から出る声のようなものを聞いた。「小麦一コイニクスを一デナリオン、大麦三コイニクスを一デナリオンとする。オリーブ油とぶどう酒を損なってはならない。」（6:6）
ここで言われていることは、「一デナリオン」が当時の労働者の日当でしたから、一日働いて「小麦一コイニクス」が買えるということです。コイニクスというのは穀物を量るのに用いられた単位で、1コイニクスあたり約1.08リットルに相当します。小麦は1kgあたり約1.8リットルですから、1コイニクスで600g買える計算になります。現在日本ではステルス値上げにより、小麦粉の1袋の量が900gとか750gになっているのにお気づきの方もいらっしゃるでしょう。それくらいの量を想像していただくと良いのです。時給1,000円で8時間労働して8,000円もらったとしても、それで買えるのが小麦粉一袋。パンを作るにしても、卵やバターが必要ですから、これで一体何が食べられるというのでしょうか。それまで300円で買えた物が8,000円出さなくては買えないような状況であります。これはまさにハイパーインフレであり、お金の価値が26分の1くらいまで下がってしまったことを意味します。

極端な例になりますが、1900年代初頭、第一次世界大戦に敗れたドイツは巨額の賠償金を請求されていました。それと同時に国内では物価が1兆倍に跳ね上がったと言われています。この凄まじいインフレの原因は、ドイツの中央銀行であるライヒスバンクが狂ったよ

² https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/attach/pdf/230410-31.pdf

うに紙幣を増刷したことにあります。大戦勃発時（1914 年）の貨幣供給量を 1 としたとき、1922 年には 100 倍、同年後半には 1000 倍、1923 年には 1 万倍、それ以降は 1000 万倍、1000 億倍、ついには 1 兆倍に達しました。お金とは「無から有を創造」するものであり、中央銀行は自由にお金を刷れるけれど、刷れば刷るほど対外的なお金の信用度は下がります。そして、刷った分だけ物価は高騰するのです。当時のドイツは、何とりんご 1 個 1 兆マルクという破壊的な市場経済に陥っていました。当時の状況を皮肉的に描いた絵（写真？）がありますが、そこでは山と積み上げられた札束で遊ぶ子どもたちがいます。お金というものが本当は紙切れであったということが判明した典型的な事例であります。



ジンバブエでも、物の供給量が少ない状況で、増産ではなく紙幣を刷りすぎたため、パン 1 個につき「京」というとてつもない単位が付いた時代がありました。

話を聖書に戻しますと、大麦の値段について「三コイニクスを一デナリオンとする」と言われています。大麦は小麦よりも価値が低く、家畜の餌、勤務状態の悪い兵隊に罰として与えられるもの、奴隷や貧乏人の食物でありました。押し麦になっていないもの（精白していないもの）はバサバサで食べられる代物ではなかったと言われます。大麦は、1 コイニクス払えば小麦の 3 倍の量が買えたようですが、いずれにせよ到底家族を養えたものではありません。穀物の供給量は何らかの理由で減少すると、たちまちインフレは生じます。「ボトルネック理論」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。需要と供給はバランスが取れていなくてはならず、入り口または出口が小さくなると、その口を通れる量の供給しかできなくなるということです。たとえ供給側が大豊作であったとしても、戦争などで海路が絶たれてしまうと輸出ができなくなるため、国内に大量の穀物が余ってしまいます。現在の世界はまさにそのような状態なのです。

「オリーブ油とぶどう酒を損なってはならない」というフレーズについても考えておきましょう。食糧難が早魃によってもたらされるものである場合、一年生の穀物は即影響を受けるけれど、オリーブとぶどうは多年生で他の作物よりも根を深く張るため直ちには影響を受けないということが言われているのかもしれませんが。あるいは、これらは贅沢品として上流階級の食卓を潤すもので、庶民がどんなに経済的に喘いでいたとしてもそれを減らすなど言われている理不尽な要求とも取れます。いずれにせよ、従来の経済観念が払拭されるほどの物不足とインフレが生じている状況を言い表していることは確かです。

本論 3. 現在起きつつある世界的な食糧危機の原因

さて、今日のテキストの解説はここまでとなりますが、適用として私たちが考えなくてはならないことがあります。それは、現在起きつつある世界的な自然災害と食糧不足が何を意

味しているのかということです。これまでも繰り返し食糧危機がどこかのタイミングで訪れるかもしれないと語ってまいりましたが、その要因は複合的な理由によります。第一に、日本の農家の高齢化の問題があり、現時点で平均年齢 68 歳でありますから、これから続々と引退する人が出てきて、農家の担い手が激減するということです。第二に、米の値段が安すぎるため、米農家は作っても作っても赤字経営となるため、やめる人が増えてきているということ。市場価格は農協が決めるため、生産者が値段を吊り上げることは難しいと言われます。第三に、政府が補助金を出して酪農をやめさせようとしている現実があるということ。電気代の高騰によって牛舎の管理が困難な中にある酪農家に、牛 1 頭処分するごとに 15 万円支給されるという声がかかっています。第四に、鳥インフルエンザという理由から、異常なほどのニワトリが殺処分されているということ。第五に、日本の食糧自給率がカロリーベースで 30 パーセント台であるのに加え、そのパーセンテージを維持できているのは海外からの肥料の輸入があつてこそだという現実です。中国、ロシアから輸入している肥料が、国際的關係悪化によって入ってこなくなったら、どうになってしまうのか。それに加えて、近年の異常気象がこれらの問題に拍車をかけています。戦後、日本は政策によって食糧の海外依存度をどんどん高めてきました。食料安全保障が守られることは、武器を持って自国を防衛することよりはるかに重要な自己防衛手段です。国民を守るために第一に考えなくてはならないのは、食糧自給率を上げることであり、もしそれでも十分な食糧確保ができないのであれば、供給国との関係を大切にしなければならないでしょう。

私はそのようなことを考え、微々たる働きではありますが、野菜作りを始めました。キリスト教会の中で同じ志を持った人が多く現れ、日本の農業を支えていけるようになることを願っています。現在、世界的な動きとして、新世界秩序の樹立のための指針の一つとして、「人為的・計画的に食糧危機を引き起こして、国民を政府に依存させる」という考え方があります。それは、政府が国民を完全に管理するためであつて、決められた分量の食糧だけで生きていく共産主義的な世界を確立するためです。そうすると、庶民には「食の自由」というものがなくなってしまうでしょう。

【結論】

今日の聖書テキストが、このような世界の到来を直接的に告げているのかどうかは分かりません。神の許しの下でこのようなことが起きるとは考えたくはないです。しかし、世の終わりには暗黒の世界が広がり、大きな患難の時代が訪れることは主イエスご自身が予告しておられます（マタイ 24 章）。これを福音として聞き取るならば、私たちは目を覚まして自分にできる行動を取っていくということです。アメリカも日本もコロナ以降ジャブジャブの金融政策により国債発行を続けてきましたので、その刈り取りとして今後更にインフレが加速していくことが見込まれます。米国債務は既に 33 兆ドル（約 5,000 兆円）に達している（利払いだけで 150 兆円以上）。自分の家族にとって必要なものは先に購入しておくことが大切です。また、私たちはキリスト者として志を一つにし、この世界の真の支配者が

(人ではなく)神であることを宣べ伝え、神の国の実現のために働いていくべきであります。人間としての生き方の原点に立ち返り、神がアダムに求められた、エデンの園を神の御心に適って管理する生活を、今という時代に実現していきたいと思います。それがどのような生き方なのかは、私たちが考え、話し合っていくものではないでしょうか。政府依存型ではなく、私たちが主にあって主体的に生きていく道を模索していく時だと思うのです。

【祈り】

「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」。このように祈ることを教えてくださったイエス様。私たちはこれまで生きていく上で必要なものが与えられながら歩んでまいりました。そして、これからも主に頼るところに常に助けがあることを信じます。それと同時に、困難な時代をどう切り抜けていくべきか、知恵が必要なときでもあります。日々私たちに何をすべきかを教えてください。どのような働きであっても、神の国の実現に携わっていくことができますように。この年を締めくくるにあたり、もう一度心の帯を引き締めさせてください。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
被造物を思いやり、生活の必要を満たし給う、父なる神の愛、
弟子たちの霊的養いのみならず、肉の糧をも約束し給う、主イエス・キリストの恵み、
如何なる時代にあっても、聖徒に知恵を与え、神の国のために働かせ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。